

総合移転の歩み

昭和51年10月	評議会に将来計画検討委を設置
53年11月	評議会にて総合移転(200名規模)の方針を決定
54年6月	評議会にて総合移転候補地として三小生、金川、角間の3地区を選定し調査検討を開始
55年4月	石川県が「金沢大学総合移転対策本部」設置評議会にて総合移転地を角間地区に決定
59年10月	造成工事に着手
62年9月	文法・経済学部棟を竣工
平成元年8月	文法・経済学部および附属図書館が移転
10月	大学会館が開館
4年9月	理学部が移転
10月	教育学部が移転
5年9月	教養部が移転
7年2月	大学本部、大学教育開放センターが移転、国際交流会館が開館
5月	総合移転第一期事業完成記念式典

以下は、北国新聞11月3日付「金沢大学特集」を再構成しました。「今の金沢大学」をご覧ください。
p.32上段記事、ミリアム・グリーンさん(写真右端)と三浦永士さんはワッセル現役部員です。

金沢大学の校章

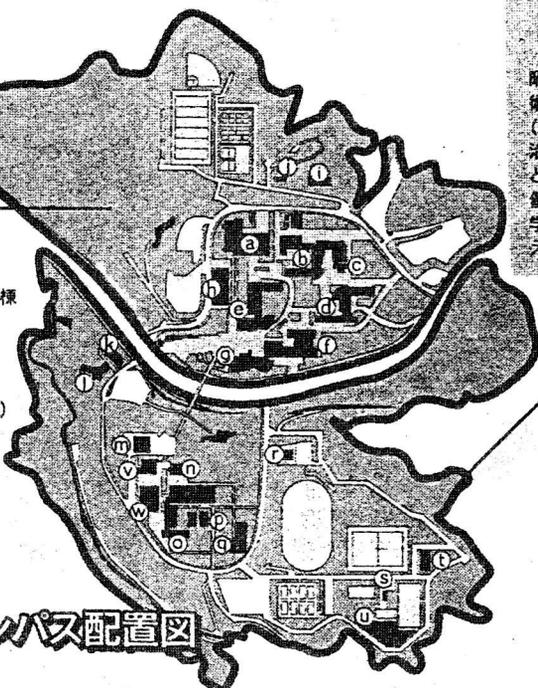


昭和24年8月制定。デザインは森田亀之助(当時金沢美術工芸専門学校校長)、森富紀(当時同講師)、羽野誠二(当時石川県立工芸高校校長)の3氏合作による。地中海沿岸原産の植物「アカンサス」(和名、ハアサミ)の葉と「大学」の文字を図案化したもので、アカンサスの優雅な葉は古代ギリシャ・ローマの人々に好まれ、哲学者プラトン創設の学園「アカデメイア」の庭にも植えられていたと伝えられる。



北キャンパス

- ②体育館(屋内運動場)
- ①教育学部棟
- ③北福利施設
- ④文学部・法学部・経済学部棟
- ⑤教養部棟
- ①附属図書館
- ④大学会館
- ⑥エネルギーセンター(中央機械室)
- ①プール
- ①北部課外活動共用施設



南キャンパス

- ④大学教育開放センター
- ①国際交流会館
- ⑦本部棟(事務局・学生部、保健管理センター)
- ③南福利施設
- ⑥理学部棟
- ②極低温研究施設
- ④RI実験施設
- ⑦南部課外活動共用施設
- ⑤馬小屋
- ①弓道場
- ④植物園
- ⑤総合情報処理センター(建設中)
- ⑧講堂(計画建物)

角間キャンパス配置図

角間キャンパス

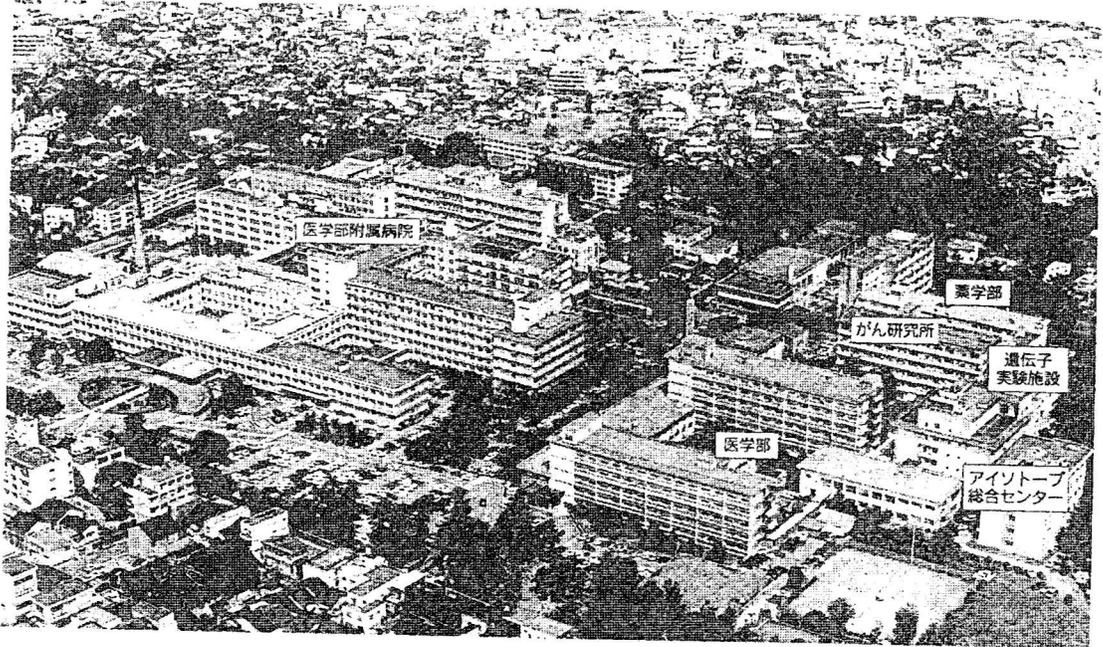
映えるレンガ色の施設群

金沢大は八学部、一研究所、一附属図書館、二附属病院、五附属学校からなる総合大学である。城内地区、宝町地区、小立野地区などに分散し、それぞれが手狭になっていたことから、これらを統合して社会の発展に対応できるように整備、拡充する必要が生じ、移転計画が始まった。

第Ⅱ期に工学・薬学部、がん研移転

昭和五十三年十一月に評議会にて総合移転の方向が決定され、医学部及び医学部附属病院を除くすべての大学施設を早急に角間地区二百畝に移転する構想が打ち出されたのである。総合第Ⅱ期事業として城外の工学部、薬学部、がん研究所が角間キャンパスに移転する計画であり、八年度は建物の配置などの設計を行う予定である。

▼宝町キャンパス



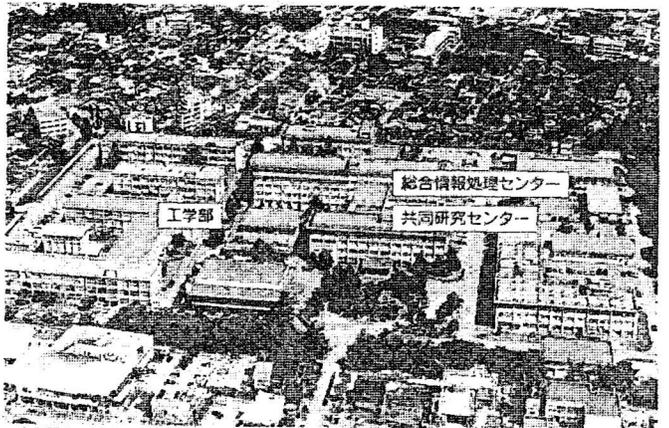
金 | 沢 | 大 | 学 | 特 | 集

来たれ金大へ!

宝町キャンパス

医療短大に代わり
医学部保健学科新設

八年四月から学生を受け入れる新設の医学部保健学科(四年制)は、医療技術短期大学部(三年制)から移行再編された学科で、医療の高度化に伴い医療技術者の高等教育をさらにレベルアップするのが狙いとなっている。医療短大の四年制移行は全国の国立大学では三番目で、看護学、放射線技術科学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学の五専攻は最大規模となる。



▲小立野キャンパス

小立野キャンパス

総合情報処理センター
七年度中に角間に移転

工学部のある小立野キャンパス内の総合情報処理センターは、7年度中に角間キャンパスの本部棟近くに移転新築される。工学部が約70%近く使用しているコンピュータなどの機器は、新キャンパスでも工学部の使用ひん度は高いものの、文字通り全学の情報処理センターとしての機能が整えられる。

好評の国際交流会館

留学生たちにとっても、キャンパスライフは快適なようだ。

一例が国際交流会館だ。五階建てのこの建物は、一言で言えば外国人のための寮。

単身用の居室七十九室（留学生用五十八室、研究者用二十一室）のほか、ゆつたりした多目的室もある。

文学部で言語学を学ぶ、アイルランドからの女子留学生ミリアム・グリーンさんは「この国際交流会館は、空調をはじめ、とても快適です」とニコリ。そのほかの留学生たちも「部屋が広くて満足している」「皆で協力して自炊できるので愛上がり」「教室まで近いので直前まで寝られる」など、とても評判がいい。

寮生活も魅力

ところで、金沢市内には学生寮として北沢寮（同市弥生一丁目）、泉学寮（同市野町五丁目）、白梅寮

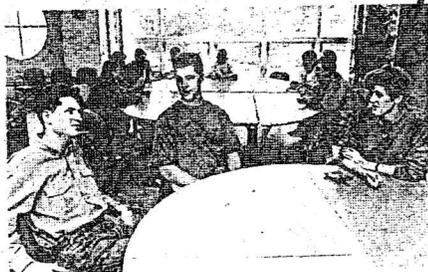


▲英文の世界に遊ぶ学生会



▲学生寮での楽しい暮らし

（女子寮 同市泉野町二丁目）の三施設がある。北沢寮の寮長、三浦永士君（文学部三年・愛知県出身）は「角間に移転して、キャンパスがちよつと遠くなった」とはやまながらも、「伝統ある寮で生活してこそ、金大の良さが理解できます」とキツパリ。北海道から沖縄まで、三百人近くの学生が住む寮とあつて、親睦のためのコンパやスポーツ大会などが自主的に企画、運営されている。



▲留学生たちが聊う国際交流会館

第1期総合移転を完了した金沢大の角間キャンパスは総面積86万2,000㎡。これまでの城内キャンパス22万5,000㎡と比べると約4倍の広さとなった。角間のほか医学部、工学部、平和町（附属学校）などのキャンパスを含めた金沢大全体では159万9,000㎡となり、ここに学生1万157人のほか教職員2,235人、附属学校の児童生徒1,746人の計1万4,138人が日々、学問研さんやキャンパス運営に取り組んでいる。「天下の書府」の伝統を受け継ぐ金沢大の様々な側面を、数字で紹介する。

（データは特別な記載がある場合を除き、平成7年5月1日現在）



Data 1 【身上調書】

8人兄弟の46歳。子孫は約6万人

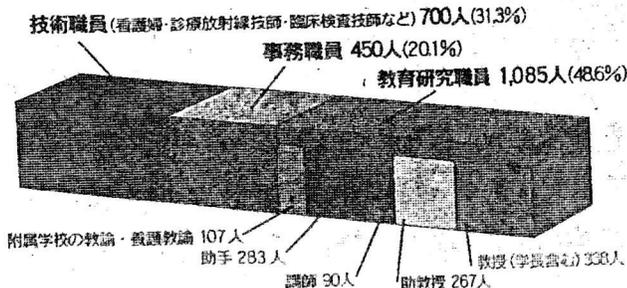
■金沢大は明治7年に創設された石川県師範学校をはじめ、金沢医学校（明治12年）、第四高等学校（明治20年）などの歴史と伝統を引き継ぎ、昭和24年5月に発足、ただいま満46歳。
■法文学部は昭和55年に文・法・経済の3学部へ改組され現在は教育学部・理学部・医学部・薬学部・工学部と合わせて8学部。他に教養部、大学院10研究科、がん研究所などから構成される。
■これまでに学部49,080人、大学院修士課程5,281人、同博士課程1,325人、医療技術短期大学部3,620人など合計60,000人を超える人材を送り出している。



Data 2 【職員数】

働くスタッフは約2,200人

■スタッフの約半分は教授をはじめとする教育研究職員、3割が技術職員、2割が事務職員となっている。
■教育研究職員のうち11.8%128人、事務職員のうち36.7%165人、技術職員のうち70.0%490人が女性である。
■教育研究職員のうち約2%の19人が外国人教員である。
■医学部附属病院では全体の約3分の1に当たる758人が働いている。



Data 7 【産学官協力】

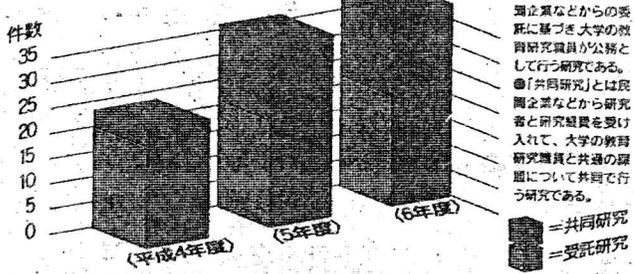
企業や自治体と88件の受託・共同研究

■国立大学は民間企業や地方公共団体などと連携して研究協力を推進することが求められており、金沢大では平成6年度、受託研究22件、共同研究16件を実施した。

■近年の実施件数の伸びは著しく、2年間で約65%増となっている。

■昨年度の受託研究には「白山の高山植物に関する研究」など、共同研究としては「産業廃棄物焼却炉に関する研究」などがある。

【受託研究・共同研究の件数】



●「受託研究」とは民間企業などからの委託に基づき大学の教育研究員が公務として行う研究である。
●「共同研究」とは民間企業などから研究者と研究経費を受け入れて、大学の教育研究員と共通の課題について共同で行う研究である。

■ = 共同研究
■ = 受託研究

Data 8 【附属学校】

園児・児童・生徒は約1,700人

■金沢大には教育学部附属学校として、明治7年開設の石川県立成学校附属小学校の伝統を受け継ぐ小学校をはじめ、中学校、高等学校、養護学校、幼稚園がある。

■ことし9月、小学校、中学校、幼稚園が平和町キャンパス（高等学校横）に移転統合し、新たに生まれ変わった。

■ここで学ぶ園児・児童・生徒約1,700人に対し、107人の教育職員による充実した教育が行われている。

養護学校 68人
男57% 女43%

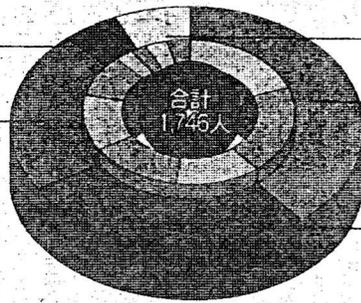
高等学校 393人
男58% 女42%

幼稚園 133人
男52% 女48%

小学校 678人
男50% 女50%

中学校 474人
男50% 女50%

■ = 男
■ = 女



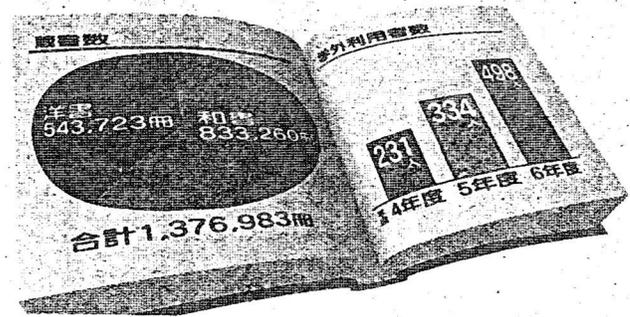
Data 9 【附属図書館】

和・洋書合わせて約138万冊

■金沢大学附属図書館は角間キャンパスの中央図書館、宝町キャンパスの医学部分館、小立野キャンパスの工学部分館で構成されており、3館合計の蔵書数は和洋書合わせて約138万冊、雑誌約2万9,000種にのぼる。

■蔵書の中には故紙鳥敷（あけがらす・ばや）師高等の「読鳥文庫」、江戸時代の文献を集めた「用和堂文庫」、「北条文庫」などがある。

■市民への開放事業として上記3館とも資料の閲覧、文献の複写などのサービスを実施している。



Data 10 【附属病院】

ベッド数832床、1日平均患者数は約2,300人

■医学部附属病院とがん研究所附属病院の二つがあり、医学部附属病院には内科3、外科2のほか核医学診療科など計19診療科、がん研附属病院には内科と外科の2診療科がある。

■医学部附属病院は救急病院、特定機能病院などの指定を受けている。

■二つの病院を合わせて看護士417人を含む796人（専任のみ）のスタッフが対応している。

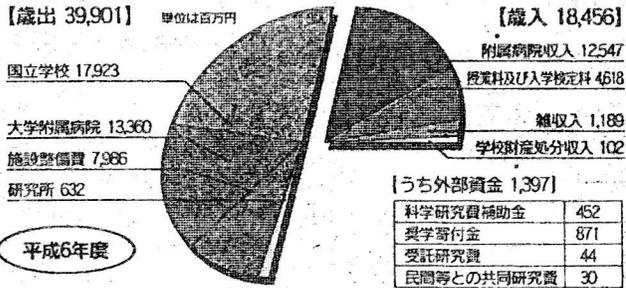
病院名	診療科数	病床数	診療状況(平成6年度)			
			外来		入院	
			延患者数	1日平均患者数	延患者数	1日平均患者数
医学部附属病院 (宝町キャンパス)	19科	792床	353,699人	1,444人	265,406人	727人
がん研究所附属病院 (米原キャンパス)	2科	40床	17,467人	71人	13,227人	36人

※外来診療日数 245日

Data 11 【歳入・歳出】

歳出総額は約400億円。人口10万人規模の市に相当

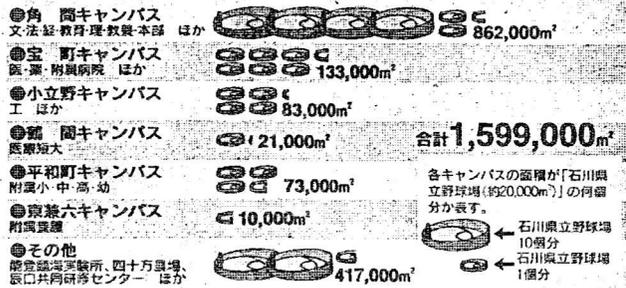
■金沢大の年間予算は約400億円。これは人口10万人程度の市の予算に相当する規模であり、主な財源は国税である。
 ■国立大学の歳出は教育研究という性格上、人件費の比率が高く、金沢大の場合は約47%（187億円）を占める。
 ■近年、優れた研究者に一定の審査を経て交付される科学研究費補助金が増加傾向にあるほか、奨学金付金など外部から受け入れる資金も増える傾向にある。（これらを合わせ、歳出の約35%）



Data 12 【キャンパスの広さ】

総面積約160万㎡。石川県立野球場の約80倍

■金沢大のキャンパス総面積は石川県立野球場80個に相当する約160万㎡にのぼる。主キャンパスは金沢市内6カ所に分かれている。
 ■かつては「お城の中の大学」として有名だったが、旧城内キャンパスや附属小学校などがあった旧広坂キャンパスは移転したため、この数字には含まれない。



秋の深まりを見せる石川県白峰村の牛首川河川敷で二十八日、初の「百万貫の岩まつり」(手取川流域開発期成同盟会、百万貫の岩まつり実行委員会主催、北國新聞社など共催、テレビ金沢、エフエム石川など後援)が開かれ、親子や若者が自然とのふれあいに歓声を響かせた。

百万貫の岩は先月、建設省金沢工事事務所により初

秋空の下、巨石に触れ

白峰で百万貫の岩まつり

めて計測が行われ、四十八百三十九ト(合三十九万貫)もあることが分かった。まつりは全国的にも珍しい大岩を生かし、治水、治山事業の理解を得ようと今年初めて企画された。

日ごとに冷え込みも厳しくなり、この日は金沢で七度、輪島で五・五度の最低気温を記録、平年を二、三度下回った。それでも日中は青空が広がり、河川敷では子供たちが小石に顔を揃く。ロックベントを築しみ、父母らが自然散策で週末を過ごした。

